



杉田 光



動画配信中

信頼回復について問う！

本市にて新型コロナウイルス感染症のクラスター発生が確認された12月1日、市長は後援会関係の会合を開催していたと聞いている。この判断は、市民への信頼回復に対する誠意が伝わらないのではないかと考え、所見を聞きたい。

市長 後援会関係の会合の直前にクラスター発生の情報が入ってきたため、時間を短縮して開催し、すぐに市役所に戻って対応に当たった。そのため、情報収集や職員への指示等は遺漏なく行うことができたと考えており、今後も緊急事案に対して迅速に対応する姿勢で臨んでいきたい。

◆子育て環境の充実

問 子育て環境の充実を目指す本市として、妊産婦医療費助成制度の期間延長を県に働きかけると同時に、本市単独でも延長できるように検討すべきではないか。

健康福祉部長

市単独で期間を延長するためには、制度の見直しや新たな財源が必要となるが、貴重な提言であることから、県と協議を行うなど慎重に検討したいと考えている。今後も産後の女性に寄り添った支援の充実に努めていきたい。



須田 瑞穂



動画配信中

法的な根拠の説明を！

問 自身が代表を務める資金管理団体の会員への金券配布について、市長は法的に問題ないとの見解を示しているが、明確な根拠を聞きたい。

市長 新型コロナウイルス感染症の影響により総会が中止となったことに代わり、市政報告パンフレットと食事券等を配布したものである。予定していた総会が同一趣旨の市政報告活動に変わり、提供予定であった食事が食事券に変わったという経緯から、公職選挙法の例外規定に該当するものであり、適法であると考えている。

◆金券配布をめぐる問題

問 金券配布に関する報道後に開催された例会について、出席者から弁明のための会議のようであったという話を聞いたが、実際はどうであったのか。

市長

例年、スライドを活用して30分程度の市政報告を行っているが、コロナ禍という事情を鑑み、時間を短縮して開催した。また、市政報告に加え、報道等でご心配をおかけしていることに対し、おわびと説明を行ったものである。



鳥井 康子



動画配信中

コロナ禍での市民生活について問う！

問 新型コロナウイルス感染症の影響により、生活保護を必要とする市民が増えていると考え、申請件数や相談件数に変化はあるのか。

健康福祉部長 令和2年4月から11月末までの期間を昨年同期と比較すると、申請件数は概ね例年と変わらないが、相談件数は増加傾向である。同感染症の影響に言及する相談者もいることから、多くの市民が先の見通せない経済状況に不安を抱えていると思われるため、引き続き相談者に寄り添った相談体制を継続していく。

◆コロナ禍でのタブレット端末の活用

問 新型コロナウイルス感染症の感染拡大が進んだ場合、タブレット端末を利用したオンライン授業の実施が必要になると考えるが、検討状況を聞きたい。

教育次長

全児童生徒にタブレット端末が配備される令和2年度末までに長期間の学校休業を余儀なくされた場合、学校での少人数の対面授業と動画の配信による家庭学習支援を両立していく考えである。できることから着実に準備を進め、同時双方向型のオンライン授業についても推進したい。